

ふくしまの子どもたちを放射能被害から守るため署名にご協力ください。

「ふくしまの子どもたちを放射能被害から守るための署名」の要望項目は、ふくしま復興共同センターに寄せられた声（アンケートなど）をもとに作りました。その一部をご紹介します。

★地域全体の除染を急いで！

学校や幼稚園などの除染は、少しずつですが、進んでいます。でも、子どもたちが過ごすのは学校や園舎だけでしょうか。通学路やお家（自宅もお友達の家も）、塾、近くの公園、お店屋さん…、など地域全体を除染しなければ子どもが受ける線量は下げることができません。専門家の助言も得て、一日も早く除染してほしい！

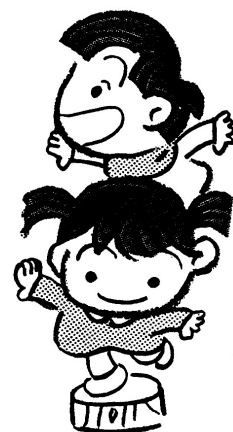
★内部被ばく調査を一日も早く！子どもたちの健康をずっとサポートして！



事故直後の線量が一番高い時期、子どもたちはどこで何をしていましたか？「いっしょに給水や買い物の列に並んだ」、「雨の中、高校の合格発表を今か今かと待っていた」、「着替えも入浴もできず、そのまま寝ていた」…。あの時、どのくらい被ばくしてしまったのでしょうか。今も低線量とはいえ被ばくが続いています。一日も早く、内部被ばくの検査や検診を受けさせたい！そして、万が一、悪影響が出た場合にすぐに発見でき、治療が受けられる体制をとってほしい！もちろん無料で！

★子どもたちの学ぶ環境を整えて！

授業中の暑さ対策として、扇風機で対応した自治体があります。暑さ+扇風機の音+プリントや教科書が風で飛ばされる=集中力がもちません。学べる環境ではありません。そして、来年も夏は来ます。今すぐ、各教室にエアコンを付けてください。



★安心・安全な食べ物を子どもたちに食べさせたい！

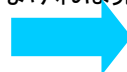
家でも学校でも、安心できる食材でできた料理を食べさせたい。食材を細かく測れるように、例えば学校ごとに計測器を置いてほしい。

★「避難休暇制度」の創設を！

「『子どもと県外で一時的に過ごしたいので、少し休みをください』と言ったら、『じゃあ、辞めていいよ』と言われた」。こんな問題が県内のあちこちで起きています。夏休み中、県内の子どもたちのために企画されたキャンプなども、低学年の場合「保護者同伴」のものが数多くありました。「親子いっしょに過ごしたい」、こんな当たり前の要望に応えられるような制度がほしい！子どもを守るために、親を守ってください！

★かかった費用は、国と東京電力が支払ってください！

今回の原発事故は、「地震や津波対策の抜本強化」を求めた警告を無視し、対策をなおざりにしてきた結果起きた「人災」。原子力政策を推進してきた国と事故を起こした東京電力に、事故さえ起きなければ発生しなかった被害・損害のすべてを賠償してほしい！



あなたの声を国会へ届けます。どうぞ署名にご協力ください。（裏面をご覧ください。）

東日本大震災・原発事故被害の救援・復興めざす福島県共同センター（略称：ふくしま復興共同センター）は、労働組合や商工業者、農民、女性団体、医療機関連合会など、様々な団体が構成されています。支援物資の受け入れとお届け、避難所での炊き出しや相談活動のほか、国や県、東京電力との交渉など、復旧・復興と、自然ゆたかで安心して暮らせる福島県をとりもどすための活動にとりくんでいます。